

議 事 録

日 時	令和5年7月25日（火曜） 午後6時00分から午後8時00分まで
場 所	日野市役所 505 会議室
会議件名	第2回 第4次日野市学校教育基本構想検討委員会
主な議題	教育基本構想について
参加者	委員長：梅澤秋久、副委員長：川上潤、委員：小宮広子、土屋早苗、船山徹、和田栄治、森田正男、黒澤一慶、諸星修、前洋子、佐野礼子、赤久保洋司、中田秀幸、村田幹生、長崎将幸、竹山弘志
配布資料	あり
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ● 了承(意見なし) ○ 了承(意見あり) ○ 要修正・再説明 ○ 不承諾 ○ 情報共有のみ <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> } </div> <p style="margin-left: 40px;">いずれかに該当する場合は「主な内容」欄に意見要旨を記載</p>
主な内容	<p>【開会】</p> <p>事務局：ただ今から、第2回の第4次日野市学校教育基本構想検討委員会を開催させていただきたいと存じます。私は事務局の日野市教育委員会の教育指導課主幹の坪田と申します。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。委員の皆様におかれましては、本日、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、重ねて申し上げますが、本会議におきましては公開として進めさせていただくものでございます。傍聴並びにオンラインでの視聴を第1回検討委員会と同様に、引き続き実施させていただければと思っております。委員の皆様におかれましては、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、会議に入ってまいりたいと存じますので、議事進行につきまして、梅澤委員長にお願いを申し上げていきたいと存じます。梅澤委員長、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>委員長：改めまして、こんばんは。皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。会議に先立ちまして資料の確認を行います。</p>

(資料の確認)

ご紹介しました資料の不足等については、事務局にお知らせください。よろしいでしょうか。

それでは、次第に沿って、会議を進めてまいります。

1 日野市教育委員会教育長挨拶あいさつ

教育長：皆さん、こんばんは。教育長の堀川でございます。事務局を代表しまして一言、冒頭にご挨拶させていただきます。前回、5月23日に第1回から早くも2か月が経ちましたが、第1回の前回の時には、事務局からの5年間の振り返り、そして梅澤委員長、川上副委員長をはじめ、岩瀬先生、3名からのプレゼンテーションということで濃密な2時間をフルに使い切ったという処でございます。今回はしっかりと対話の時間が取れればと思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。

この2か月間ですが、事務局としてたくさんいろいろな動きがございました。まず1つには、4次構想の策定に向けて、教育委員の皆さんと校長先生方とのワークショップがあり、そしてPTAでも保護者の皆様とのワークショップもありました。また今後は、各学校での教員の間でのワークショップや、また地域の方々と学校との間のワークショップも現在進行形で進んでいるところでございます。そういう意味では、3次構想を策定した時と今回との大きな違いというのが、前回の時は、委員会10数回開催をして何十時間も議論をして、文言の点の位置まで議論をするという細かい作業もありましたが、今回の第4次構想委員会につきましては、そういう形ではなく、開かれた会議体でいろいろなところで中身についての議論を進めております。そんな中での4回しか開催されない委員会の役割でございますが、委員会については大きな方向性についてご議論をいただくということ、また、内容については様々な意見、様々な場に出てくる意見を総合していただく、そういったことが本委員会としてぜひお願いしたいと考えている次第でございます。その中では、今日も資料の中にも入っておりますが、全小中学校にアンケートを取った子供達の声もございまして、こういった声も踏まえながら、ぜひご議論を深めて進めていただければと考えております。今日は前半では構想の方向性、そして後半

では第1回でいただいた内容も踏まえながらの大局的な内容についてご議論、ご対応いただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：堀川教育長、ありがとうございました。

続きまして、第4次日野市学校教育基本構想検討委員会委員長挨拶

2 第4次日野市学校教育基本構想検討委員会委員長挨拶

委員長：改めまして、こんばんは。教育長のお話にありました通り、第1回会議は、比較的受け身の会だったかなといったように思っております。私も話をさせていただきましたが、3次構想の振り返り、そして川上副委員長、そして岩瀬校長にこれからの教育の方向性についてお話いただいたと思います。共通していたのは、第3次はある程度よい形の仕上がりであったのではないかと思います。すべての命“いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく、これからの教育の方向性であるウェルビーイングが踏まえられていたり、あるいは具体的な3点、一律一斉の学びから、自分にあった多様な学びと学び方、これは、個別最適な学びということで今の学習指導要領にも書かれている内容でございます。そして、自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へということで、対話的な学びというところです。そして、わくわく、これはいきいき、わくわく、ウェルビーイングともつながってくるのかと思うのですが、そういった環境を大人がデザインしようということでありました。そして、このような第3次構想をいかに踏襲し、そして新たなものをつくっていくか、そのプラスアルファをつくっていくのがこの第4次構想の会議体かと思われま。先ほどの教育長のお話の通り、会議の回数は少ないです。しかし、多様なステークホルダー、関係者からの意見聴取がもう既に始まっています。お話の通り、教育委員、PTA、先生方、地域の方々、そして子供達、今日はそういった意見、そして委員皆様から、前回と今回の間にいただいたご意見等も踏まえながら、新しい形で皆さんの俯瞰したご意見をまとめていただく、その方向性を示す会になるのかと思っております。前半は少し説明が長いと思いますが、後半はぜひ皆様でよい意見をまとめて、よい方向性をつくっていただけたらと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

委員長：それでは、次第の3番に入ります。第4次日野市学校教育基本構想策定に向けた取組の経過とアンケート分析について、事務局から説明をお願いいたします。

3 第4次日野市学校教育基本構想策定に向けた取組の経過とアンケート分析について

事務局：(資料に沿って説明)

- ・第1回第4次日野市学校教育基本構想策定委員会
- ・日野市教育委員会教育委員と日野市立学校管理職との懇談会
- ・日野市立小中学校児童・生徒のアンケート(言語)分析について
- ・第4次日野市学校教育基本構想策定に向けた検討の観点

委員長：ありがとうございました。今の説明を踏まえて、これより各委員の皆さんの議論の場に移っていききたいと思います。

4 第4次日野市学校教育基本構想の目指す方向性について

委員長：・第4次日野市学校教育基本構想検討委員会の役割
・第4次日野市学校教育基本構想策定の手続・位置付け
・第4次日野市学校教育基本構想の目指す姿
・第4次日野市学校教育基本構想の内容
・まとめ

次第の4番をご覧ください。第4次日野市学校教育基本構想の目指す方向性についてということで、ここはおよそ一時間半、大きく2つのワークショップを行いたいと思います。まず初めに(1)第3次日野市学校教育基本構想から第4次日野市学校教育基本構想策定へのプロセスというところで、皆様にご議論いただきたいと思っております。なお、使用する資料につきましては、先ほどの紙の資料の03です。小中のアンケートの調査結果、そして04番はパソコンのほうに入っております。小中の子供達のクラスター分析、そして05番が検討委員から、皆様からのご意見がジャムボードにまとまったA3横置きのもの、そして、資料06番としてA4横置きのものであります。これが

事務局のほうで皆様のご意見、子供達の意見も含めてまとめていただいた簡潔な資料になっております。資料 06 をご覧ください。ここには、縦軸に観点、策定の手続き、構想の位置づけについて、次の段が目指す姿、そして1番下の段が内容ということで、横軸には、左側が望む姿、右側が望まない姿、これは今の会議の中で非常に重要な視点と考えます。やりたい、やるべきということはみんなでやる、やらない、やるべきではないこと。これらをみんなでやらないとはっきり区別することによって、かなり方向性が差し示せるのではないかと考えてございます。これら討議資料を踏まえ、この後グループ討議をしていただきたいと思います。繰り返しの確認ですが、すごく細かいところというよりも、俯瞰した立場で皆さんには大枠をお話いただきたいと考えてございます。そして、次第に戻っていただくと、四角枠の中に「問」というものが書かれております。その問に対する、最適解を各グループの4名でおつくりいただくということになろうかと思えます。すなわち、第3次日野市学校教育基本構想を踏まえ、今後5年間の日野市のよりよい教育活動の実現に向け、第4次日野市学校教育基本構想をどのような構想にしていきたいかということ、まずは10分間、非常に時間は短いのですが各グループでお話し合いをいただきたいと思えます。その後、各グループから2、3分程度でグループの発表をいただきます。それでは、よろしく願いいたします。なお、各グループには指導主事が入り、ファシリテーターを務めますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員長：それでは、10分少々時間が経ちました。本当に短い時間で恐縮だったのですが、各グループの発表を一通り伺いたいと思えます。発表は2、3分をお願いできたらと思えますが、よろしいでしょうか。

Aグループからお願いいたします。

Aグループ：Aグループです。よろしく願いいたします。構想に向かっては、誰目線にするのかというところで、やはり子供目線が大切であり、そのことを前提にしていきたいという話が出ました。子供達を真ん中というところもお話に出たのですが、実行するのは先生たちであるということで、実行する先生方も楽しいという目線も大事にしていきたいという話が出ました。また、第3次のほうにも出ましたが、やはり「み

んな」という声がすごく大切であり、今回の中では特に委員だけではなく、先生方、それから市民の方、いろいろなところで議論されていることが含まれていく、そういった「みんなで」という声を大切にするといいところが話の中でも出ました。また、実際に内容にも入ってくると思うのですが、子供達のクラスター分析の中にも1日に1回、自由に自分で考えたことができるという日があるとよいというような意見も出ていて、すごく未来に向けたいろいろな考えを子供達は考えているんだなということも出ました。やはり子供が選択できる活動があるというところでは、これからとても大事になっていくのではないかなというお話が出ました。それから、何と言ってもわかりやすい構想になっていることが重要だということです。第3次構想がわかりにくいということではなく、よりわかりやすく、どこに向かっているのか、方向性はどういうことかをわかりやすくすることが第4次の構想に求められているのではないかという話が出ました。以上です。

委員長：ありがとうございました。子供を中心にといいことで、以前はファーストという言葉を使っていましたが、今はセンターといいことで、子供を中心に、周辺にいろいろな人が取り巻いているということでした。国の構想等も同じ考え方になってきています。また、実行するのは先生だという考えもありましたが、もしかすると学びを実行するのは子供かもしれません。第3次にもあった通り、それをデザインするのは先生です。そのデザインという実行を恐らく先生がするのだらうと思います。その先生も楽しみつつ、子供達も楽しみつつ学ぶというお話だったと思います。また、「みんなで」というところが改めて強調されていることに加えて、1日1回は自由に学びたいという、所謂「イエナプラン教育」ですが、これは世界でスタンダードになってきています。自由に自分で学ぶ内容や速度、深度を決めて学べる教育方法です。フィンランドやオランダなどを中心に行われています。子供の幸福度の高い国が採用している教育方法だと思います。そして、わかりやすさということでした。ぜひ第3次よりもわかりやすい、そのような構想をという形で理解をしたところです。ありがとうございました。

続いて、Bグループからお願いいたします。

Bグループ：Bグループです。子供達の感想を見ていきますと、第3次から大切にされてきていることが、これから先の学校の中に、これから先子供達が学校の中に組み込むことを思うと、まず1番最初に大事にしなければいけないのは、3次構想がこれで終わり、新しい構想が始まりますという考え方ではなく、3次構想が継続しながら4次構想がスタートしていく、こういう前提に立たなければいけないだろうという話が出てきました。そうでなければ、この構想に出ている子供達の思いが置き去りにされてしまうのではないかと、それは絶対に避けなければいけないという話がありました。そして、その4次構想を実現していくには、一人ひとりが自分に何ができるのか、これを明確にしていく、それぞれが役割を明確にしていく、そして無理に手をつないでつながろうとするのではなく、一人ひとりが自分の役割を確実に果たしていくことで、自ずとつながっていく、そういう大きな構想になるとよいのではないかと思います。「一人ひとり」と「みんなで」というのは、3次でもそうだったように、これから先も大事な言葉になってくるのではないかと、キーワードになってくるのではないかと話がありました。以上です。

委員長：ありがとうございました。継続性及び連続性ですね。やはりぶつ切れのものは、なかなか積み上がっていきません。いかにそこを連続させるかという視点でありました。その中の1つが、やはり一人ひとりの子供を大切にすること、この「みんなで」ということ、この相対するようなものを、同時並行的に大事にしていこうというご意見だったと理解をしています。また、すべての子供が、自分が何をできるか、当事者性と今は言われていますが、いわゆる自分事として捉えて学べるような、そんな環境を大事にしたらどうかというご意見と受け止めました。ありがとうございました。

委員長：では、続きまして、Cグループ、よろしくをお願いいたします。

Cグループ：Cグループでございます。最初に構想の位置づけいうところになります。基本的には3次構造の理念というのが非常によいものであって、少し時間はかかりましたが、この理念に基づいて各学校が創意工夫して取り組むことができたということは非常に成果としてあった

と思います。基本的にこの考え方を継承して、また肉付けをしていくことができればよいのではないかという意見がございました。また、4次構想に於いては、どこかでこれが決まってしまうと、それが下りてきて、学校がその構想に従うということではなく、学校側が主体で動ける、学校が動きやすいシステムをつくっていくべきではないかという意見が出ました。

次に、内容のところになります。3次構造の振り返りの中でも少し課題として出てきていましたが、日野市の学校教育が目指す方向性であったり、児童生徒像の内容を明確にすること、具体的な指標を示すことということは、学校管理職の声からも出てきていました。抽象的な理念だけになってしまい、具体の施策、指標がないとPDCAをどう回そうか、課題は何だったのか、またそれを踏まえて次にどこに進んでいけばよいのか、そもそもどこまで進んでいるのかがわからなくなってしまうということがあります。それにつきましては、具体的な仕掛け、そういったものが見えるような構成にしていくべきではないかという意見が出ております。

Cグループ：付け加えて、この基本構想の会議についてですが、私は教育振興基本計画なのかと思っていたものですから、それには基本方針は必要だと思うのですが、施策を計画的に進めるため、推進するために、この計画の施策がないといけないのではないかと思いますし、よい施策を計画的につくっていくものだと思っておりました。どうも話をしているとこの理念についてのことを話していけばよいのかなという、これが委員の役割や手続き等、本会の位置づけを確認したかったということです。また、PDCAサイクルなど通して、今までやってきたことがどうだったかという評価をし、課題があればその改善策をつくって進めていくということだと思うのですが、その課題がちょっと私には、よくわかりませんでした。既に、この理念がわかりにくいとか、そういう課題は出ているかと思います。この施策がどうだったのかで、それを改善していくためにはどのような方向がよいのではないかという議論が必要かと思います。今のままだと、何となく理念だけなので、理念を受けた学校が理解し実行するという形なのですが、そのような形でやってきたのがこの5年間で、それが本当によかったのか、悪かったのかという課題なども出てこない、よりよい日野市

の教育につながらないのではないかと考えています。その辺りをはっきりして進めるとよいと思いました。以上です。

委員長：Cグループからは、前半は理念ですね。第3次のよかった点として、理念は時間がかかっても各学校の創意工夫が活かされたというところのご意見だったかと思います。私は第3次の構想委員の委員長を仰せつかっておりましたが、結論はみんなで作っていく、そしてつくった人たちがそれをどう解釈して各学校で実践していくか、そこまで含めての理念構想でありました。私もこの5年間、いろいろな日野の学校にお邪魔しましたが、すごく進んで全国に発信したいような先進的な取り組みをされている学校と、そうでない学校とはっきりわかれてしまったと感じています。ですから、みんなで作っていくという理念がどの程度、現場に浸透させられるのかという辺りが後半のお話で、PDCA辺りのご意見だったのかと思います。具体的な施策、この後どのような力をつけて、どのような取り組みをするかというのは、後半で話し合っていくことになります。今は日野の子供達、幼稚園の先生から高校の先生までいらっしゃっていますので、突き通してもらう理念、この方向性をまずは決めようということでございます。最初から枝葉の話をしてしまうと幹がない話になってしまいます。まずは幹の話をしてから、その後具体的な施策について話していけばよいのではないかと考えています。

委員長：では、Dグループ、よろしくお願いします。

Dグループ：Dグループは、まず1番先に現実を見ましようということで、実際に学校にこられていない子がいるとか、教室の中にいられない子がいる、そういう現実があるという部分が出ました。そして、その子供達もすべて含めてこれから考えていける、そういうものがあつたらよいということがあります。第3次の中で言われている、「みんなで」という部分ですが、それがアンケートを見ても、みんなが楽しい学校とか、みんなが明るくとか、いろいろな部分で本当に「みんなが」という言葉が子供達の中から出ているということも現実です。その部分はやはりすごく進んだ1歩だったのではないかと見えました。また、第3次が非常に盛り込まれていたものですから、それが今度の第4次になった時には、ぜひわかりやすく、より具体的なもの、

もっと言えば紙ベースでなくてもよいのではないかという意見も出てきています。また、実際に第3次、第4次の間にあった出来事として、コロナがありました。これが非常に大きく学校現場に影を落としております。このコロナからの学びというものも必ず加えていき、第4次で進めていければという意見もありました。以上です。

委員長：ありがとうございました。不登校の子供等、やはり目を背けてはいけない現実も存在しているということでした。そして、他のグループからも多様性を受け止めてという意見がいろいろな場所で私の耳にも入っていました。やはりすべての子供を対象にして考えてこそ意味があります。一方で、子供達の意見で、みんなで楽しい学校をつくりたいというご意見があるというのは、ある意味この第3次のよい成果であったということ、そして具体を明確にした構想にしたいというご意見であったと理解をしています。

さて、各グループからのご意見を総じて資料6番にあるものに加えて、子供達の意見やそういったものを含めて皆様のご意見を出していただきました。やはり子供を中心という意見が非常に多く、そしてすべての子供ということです。前回の資料で言えばダイバシティ、多様性、あるいはみんなが楽しくというところ辺りは、かなり関連があるのではないかと感じております。そのことは国の施策とも一致することでもありますし、そういったものを踏まえて当事者性を持った子供達の自由な学びの場みたいなのところもキーワードになるのではないかと思います。

さて、全体のご意見を踏まえ、ご意見等があれば伺いたいとおもいます。まずは大枠について、何かもう少しこういった内容を大枠に含めてもらいたいという建設的なご意見をぜひお聞きしたいと思えます。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、次の議題に入りたいと思えます。

4. (2) 第4次日野市学校教育基本構想の内容

委員長：(2) 第4次日野市学校教育基本構想の内容についてです。少しずつ太めの枝、辺りの考えになります。今、理念の大枠が皆さんと共有してきたところではありますが、今度はそれを裏づける力です。そして、それはどんな力が必要になるのか、そして第3次構想でも3つの力という形で掲げてありましたが、次の2点について、グループでのご意見をいただけたらと思います。5年後の子供達の姿、そして、身につけてほしい力、そして2つ目として、その姿や力の実現に向けて具体的にどんなことをしていくのか、この内容につきましては比較的施策に近い形での内容になろうかと思えます。具体的にその力がついていなければ、新たにこの方略を変えていかなければいけないということになろうかと思えます。資料は先ほどの内容のものをお使いいただき、大枠を踏まえたうえで、これから身につけてほしい力と、その実現に向けて具体的にどのようにしていくか、40分程度またグループでお話し合いいただけたらと思います。では、よろしくお願いいたします。

グループ対話

全体共有

委員長：お時間になりましたが、延長時間が欲しいグループはありますでしょうか。よろしいでしょうか。では途中でも結構でございます。各グループ2分程度でご発表をお願いしたいと思います。5年後にどのような力を身につけてほしいか、そしてそのためにどのような取り組みが望まれるかということです。

それでは、Dグループ、よろしくお願いいたします。

Dグループ：まず、5年後身につけてほしい力です。自分で考えることができること、自分で自分の考えを言葉で他者に伝えることができること、なおかつ他の人の考えをきちんと聞いてそれも大切にできることです。他者を大切にできるということは、自分を大切に生きることなので、そういう力が1番つけてほしいという根本的な部分がありました。それを実現するためにどのようなことが必要かということ、まず基礎学力です。例えば四則演算です。もっと具体的に言うと、今の子供達の生活に沿った形で何かうまく計算力、つまり理論的思考といった

もの、それから言語もそうなのですが、そういう力を身につけさせるのは、生活に寄り添った形で何かうまくできるとよいということがありました。実際、学校で行われている道徳授業というものなども、子供達の言葉の力というものをうまく増やしていったり、また引き出していったりということに、役立っているということがあります。また、地域と関わるという部分で言うと、コミュニティスクールであったり、放課後の学習教室などもそうなのですが、地域の人たちが学校にもっと関わることによって、多様な世代の人たち、いろいろな世代の人たちがいますので、そういうところとも関わったら子供達の生活はますます膨らんでいくのではないかなということがありました。以上です。

委員長：今のお話を伺うと、表現力、お互いに伝え合う力を発揮しながら、自他ともに大事にするという、人間性を大事にということと同時並行で、人間を育てていきたいといった話があったというご意見でした。基礎学力ですが、今、コアファンデーションと言われる基礎的な内容が、読み書き計算だけではなく、ICT、データリテラシーであったり、フィジカルアンドメンタルヘルス、この辺も基礎というように言われている新しい分野です。いわゆる読み書き計算だけはかなり自動化されていく世の中になってきますので、それ以外のところも踏まえた基礎的な力も検討していく必要があるのではないかとご意見でした。最後は地域との関わりが少し薄いのではないかとということで、ぜひ地域の方に学校にもっと入ってもらいやすい、その辺りも大事にしていきたいというご意見でした。

では、Cグループからお願いいたします。

Cグループ：Cグループです。最初に5年後の子供達にどのような姿になってほしいかということですが、まずみんなが笑顔であること、そして生き生きとしていることです。この生き生きは学校の今の時点だけではなく、将来社会で活躍できる、そういった生き生きさがあるということです。また、みんなで作るクラスをつくる、みんなで作る学校をつくる、みんなで作る社会をつくっていく、そのようなことをイメージいたしました。そのためにどんな力を身につけてほしいかということですが、まず一人ひとりの違い、多様性を認める力、そして自分、他者を尊重す

る力です。特に自分に対して自信がないようなことを感じることが多いということで、やはり自己肯定感を身につけていくということが必要だと思います。そのためには、自分のよさをちゃんと自分自身が照らせるような機会を持っていく必要があると思います。また、うまく行動ができるようになること、これはいろいろな声を聞いて受け止められる力なのではないかと思います。そのために、具体的にどんなことをしていったらよいのかということです。たくさん意見が出たのですが、まず学校のつながりです。幼稚園や保育園のような幼児教育から、小学校、中学校、そして高校までの学びがつながる、深められるような仕組み、そして学校だけではなく日野市はたくさんの企業、それから地域の人材がありますので、それらの方を巻き込んで学力の向上ができるような仕組みができないかと思います。また、体力の話が少し出てきたのですが、体力を向上させるためにということでも学校だけではなく、是非それをきっかけにして、地域の交流が生まれるような、そんな地域の活性化の機会となるようなこともできないかということがございました。また、楽しいということのベースになるのはやはり授業ですので、対話を使った授業の改善、そのためには先生方の研修の機会などの支援、そして先生方がそういった時間を十分に取れるための先生方の働き方改革への支援なども必要になってまいります。以上です。

委員長：ありがとうございます。先ほどのグループと共通しているのは、やはりみんながということですね。そして、クラスからだんだん範囲を広げて行って、社会を構成、構築していく力、そのためには違いや多様性を認める力、人を認めつつ自分を大事にする自己肯定感を磨いていくということでありました。また、そのために他者の声を聞き、うまく受け止めるような力が必要なのではないか。また、幼少、中高と学びを連続すること。そして地域とのつながり。とりわけ企業の話も新しく出てきと思います。体力ということでは、学校以外の地域の活性化も合わせた取り組みも大事じゃないかというご意見だったと理解しております。ありがとうございました。

では、次にBグループ、よろしくお願いいたします。

Bグループ：Bグループです。5年後の姿と身につけてほしい力です。やはり

多様性、マイノリティの立場に立って考えることができること、それから1日を振り返って今日は楽しかったなと思えるということ、居心地のよい場所がある、コミュニケーション、このようなことがキーワードとして出てきました。その中で、夢と希望を持っていること、それに加えて、生き抜く力、生きていく力があるという子供像をまず描きました。生きていく力、生き抜く力に自分らしくというのを付け加えて、自分らしく生きていく、自分らしく生き抜く、更に私もあなたもというところを基本的に大事にしなければいけないことではないかという話をしました。具体的に、身につけてほしい力としてどんなことがあるのだろうと話を進めていったところ、第3次でも大事にされてきた対話というのが1つあります。これから先も大事にしていかなければならないだろうという話になりました。ただ、これまでの学校での授業改善の様子を見ていくと、対話そのものが目的になってしまっているところはなかったか、この辺りの反省に立って、何のために対話をするのか、対話することの先にある目的をしっかりと見失わずに子供達に対応の力を身につけさせていくことが必要なのではないか。では対話ができる対応を進めていく力とは一体何だろうかと考えた時に、まずは多様性の理解がここでも出てきました。相手を理解しようとする気持ちや心の持ち方。それからコミュニケーションの力、言葉の力、基礎的な学力が出てきました。また、もう1つの軸として、成功体験と失敗体験のバランスを大事にしていくことが必要であることです。答えが1つではない状況、答えがわからない状況の中で、試行錯誤して失敗しながら成功にたどり着く力を様々な体験を通して身につけさせていく必要があるではないかという話になりました。誰がどのようなことをという話については、途中で終わってしまったのですが、私たちのほうで大事にしたいと思ったのは、家庭でも学校でも失敗を叱らない、失敗を叱られる経験をなくす、これを大事にしていきたいという話がありました。それから、実体験からくる達成感の実感、これも家庭、学校、地域で大事にしていかなければならないことだろうという話になりました。以上です。

委員長：ありがとうございました。やはりここでも多様性、あるいは居心地のよさというウェルビーイングが語られたかと思われま。3チームで考えてみると、ポジティブエモーション、前向きな気持ちを持たせた

というのが共通点として見えてきたと思われます。その中の具体として、私もあなたも自分らしく生き抜くというところ、対話という具体の姿が見えてきて、共生であったり、持続可能な社会に必要なコミュニケーション能力、特徴的であったのは、失敗という言葉が出てきたところかと思われます。先行き不透明な時代故に、トライアンドエラーのエラーを認められる、そういう日野になるとよいのではないかというご意見と理解をしました。ありがとうございました。

次に、Aグループお願いいたします。

Aグループ：Aグループです。Aグループでは、まず本当に子供達みんながいろいろなことを楽しみにして登園、登校できる、そんな子供達であってほしいと考えました。そのためには、楽しいことばかりではありません。つらいことももちろんあります。その時に、つらいことも前向きに捉え直すことができる力を持ってほしいと思いますし、前向きに考えることができるたくましい力、それからもう1つすごく大事だと思うのですが、つらい時に周囲に自分から頼ることができる力というのにも必要かと思ひます。そして、誰もがみんな相手を受け止める、その力も大事なのではないのでしょうか。それからもう1つ、相手を大切にすることにも必要です。そのためにいろいろな思いや考えがありますが、相手に思いを伝える、自分の思いを伝えるという力は必要だと思ひます。そして、自分で考え、自分で行動できる、そういう力を持った子供になってほしいと思ひます。それから、第3次の基本法構想の中にもありますが、やはりみんなが将来に向けて、いろいろなことが待ち構えていると思ひますが、夢と希望を持ってもらいたいと思ひます。幸せな人生を歩んでいくためには、いろいろなことあるかもしれませんが、自ら考え、自分で選択し、行動できる力というのが必要になってくると思ひます。そして、将来に向けて自分の未来を描ける、そういう力はとても大事だと思ひています。そのために少しできないこと、もう少し頑張ればもしかしたら自分のしたい未来に、なりたい自分というのに出会えるかもしれないので、そういうことが描ける子供になってほしいと思ひています。そんな話が出ました。地域や家庭のことも話したのですが、子供自身が自己肯定感を高めていくために、子供自身をしっかりと褒めて、認めて、受け止めるという

地域であり、学校であり、保護者であることが大事だということが出ました。そのために、家庭では学校との距離感を縮め、学校に行く機会を増やしたり、お話の中には先生も褒めてもらいたい、褒めてもらうことによって先生もより頑張ろう、やろうという気持ちにもなると思いますので、先生を褒めるということも必要という話も出ました。また、地域とつながっていくことによって、みんなが地域を頼っていいんだよ、ということにもつなげていきたいという意見も出ました。以上です。

委員長：ありがとうございました。ここでも楽しみとか、前向きさ、やはりポジティブな考え、そしてつらいことをうまく乗り越える、受け止め乗り越えるということで、今、レジリエンスという言葉が注視されてきています。本当にしなやかに生きる力と、そのためには他者と共に、他者を大切にということで、ウェルビーイングのポイントであればよい人間関係、そのためのキーワードである利他行動が大事なのではないかとことです。この利他行動の具体として、褒めて、認めて、受け止める、それが学校だけでなく、家庭、地域でも行われるようにといったご意見だったと理解をしております。ありがとうございました。

さて、全体でのご意見が寄せられましたが言い足りないとか、こんなことつけ加えたいというご意見ございますか。よろしいでしょうか。

おそらく、まだまだ言い足りないことや、もっとこんな意見が出たということがありますが、すべてデータとして残ってございます。これは今のICTのよさです。今回、出していただいたご意見を事務局の方でまとめて進めていくことを想定しています。皆様のご意見を1つずつすべて集約できる、これはやはりICTのよさだと思います。例えば学校に於いて、今まで先生が指名した子供だけが発表する、そういった授業ではなくなっている、今回の会議も進め方が変わってきている時代になっているということが、こういった会議からもわかるかと思えます。

さて、それでは皆様のご意見を踏まえ、次回、これらを合わせたうえ

で更に考えを深めていきたいと思います。
それでは、次第のほうを進めたいと思います。

5 今後の流れと次回の内容の確認

委員長：次第の5番です。今後の流れと次回の内容の確認についてです。事務局、よろしくお願いいたします。

事務局：(資料に沿って説明)

委員長：多様なステークホルダー、いろいろな方たちの意見がどんどん吸い上げられてきているということです。それらを踏まえて、第3回に向けて、今日の議論も含めて内容を形にしていきたいと思います。皆様から何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

6 第4次日野市学校教育基本構想検討委員会副委員長挨拶

委員長：では、次第の6番です。副委員長の川上様よりご挨拶いただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

副委員長：皆さん、本当に今日お疲れ様でした。私も非常に楽しく議論させていただきました。テクノロジーを使った新しい取り組みですし、それからステークホルダーも増えているということで、非常に心強く感じます。委員長からも何回もありましたように、この委員会の役目を皆さんがどう理解するのか、これがすごく重要だと思います。何回も繰り返して出てきていると思うのですが、細かい話よりは大枠をつくる、俯瞰をする、それからインテグレーションをする、これらの内容は難しいです。どうしても我々が話していると、いろいろな思いがあります。話し合っているわけなのですが、それを考える人は山ほどいると思います。この委員会の人たちは、そういうものをまとめて、最終的なアウトプットとしてどういう形になっていけばよいのかということを考えるのが役目なのではないかと今日の議論を通して非常に強く感じました。第3次でこういう子供達をつくりたいという根幹はあると思います。それを別につくり直すのではないというのは、皆さん今日議論されていたことだと思います。ただ、もしかしたらもう少しシンプルに伝えられるようなもの、いわゆるこれが日野市の目指すモデル、こういう子をつくりたいよということをシンプルに言えたらよいのではないかと思います。それを具現化していくためにやって

	<p>いくプロジェクトが、これとこれとこれで、それを推進していくオーナーは誰なのか、そういう大枠の枠組みが決められたら、私はこの委員会はすごくよい仕事をしたのではないかと思います。アウトプットのイメージから入ることがすごく重要だと思いますので、そういう方向に向かって委員会の議論が流れていけば非常によいのではないかと思います。今日はよい議論をさせていただきました。また次回、期待していますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。</p> <p>委員長：川上副委員長、ありがとうございました。それでは、本日の議事はすべて終了いたしました。委員の皆様から何かございますか。よろしいでしょうか。事務局、何かございますか。</p> <p>事務局：(事務局から、視聴者等へのアンケート方法について事務連絡)</p> <p>委員長：ありがとうございました。では、最後です。次回、第3回の予定につきましては、令和5年10月24日、火曜日の18時からこちらの場所という形になります。次回も傍聴及びオンラインのハイブリッドで開催いたしますので、委員の皆様には、ご理解とご協力をお願い申し上げます。</p> <p>それでは、以上をもちまして第2回の委員会を閉会いたします。</p>
作成者	教育指導課 小松